

## 新火葬場建設地（案）市民説明会 開催記録

○日時 令和3年3月15日 午後7時～午後8時

○場所 清見支所大会議室

○参加人数 12名

○高山市

副市長 西倉 良介

市民保健部

市民保健部長 橋本 宏 火葬場建設推進室長 尾前 隆治

火葬場建設推進室担当監 大川 誠

清見支所

清見支所長 森下 澄雄

### ○質疑応答の概要

参加者： 建設地（案）について皆さんの了解をいただいたと聞いたが、丹生川地域の  
ある町内が反対していると聞いた。どのようなことで反対しているか。

市職員： 丹生川町候補地を建設地（案）とすることは、案として説明している段階に  
ある。

農業に関し、火葬場ができることで産地としての評価が下がるのではないかという  
意見や、近隣の運動公園や飛騨エアパークなどの利用に影響があるのではないかとい  
う意見をいただいている。

参加者： 建設地（案）の寄附について、宗教団体が関わった土地を全市民が利用する  
ことになるので、皆さんの了解をいただいたうえで決定するものと思う。

市職員： 寄附を受けることは禁止されていない。まだ寄附を受けておらず、建設地と  
して決まった後になる。寄附する人に特別な対応をすることはないが、取り扱いにつ  
いての要綱の制定を考えている。特定の宗教に限られることがないように建物を整備  
したい。

参加者： 寄附を受けることで、市との関係に問題が出るといった危惧がない土地があ  
りがたいと思っていた。

宗教団体の建物の利用のことで、市との関係があると聞いているが、因果関係がな  
いように。

宗教団体に関し、学校ができるという話や、高山市の名称が宗教団体の名称になる  
のではないかという話があり、皆さんが心配しているのではないか。

現在の高山火葬場の跡地をどのように利用するか。

副市長： 建設地（案）に建っている建物がどうなるかは聞いていないが、宗教団体が持っている土地であることを後に引きずることや、寄附に対する特別な対応がないようにする。

現在の高山火葬場の土地は、候補地の一つとして検討されてきた経緯があり、どのように利用するかは白紙である。

参加者： 建設地（案）の寄附をやめたと言われたら、次の候補は清見町候補地になるか。

市職員： 寄附があるかどうかで丹生川町候補地を建設地（案）としたのではなく、いろいろな観点で評価したので、その条件が変わったら違う候補地になるということではない。

参加者： 寄附がなくなったら、土地を買わなくてはならないのか。その費用は上乗せになるのか。

副市長： 建設地（案）を火葬場を使う場合は寄附すると申し出を受けている。土地を買った場合、どれくらい上乗せになるかを、資料イの5ページに掲載しており、その状況でも丹生川町候補地が望ましいと判断している。

参加者： 丹生川町北方の住民である。私どもの町内は、答申を受け、説明会がされた折、総会を開き、反対という意味でなく、候補地から取り下げしてほしいという願いを、市議会と市長への陳情、パブリックコメント等でしていることを、皆さんに理解してもらいたい。

丹生川町候補地は寄附されるから候補地にしたかと質問があり、そうではないとあった。答申書の参考資料にある、寄贈の申し出があり取得費用がかからないこと、もとは農地で造成が最小限で済むことが答申の最大の理由とと思っているので、先の発言を取り下げてもらいたい。

副市長： 3件の候補地から建設地（案）を選考した理由を述べた。3件の候補地の比較において、取得する場合の経費を試算し、そういった状況でも丹生川町候補地を選考したと申し上げた。

参加者： 私の捉え方とは違う。答申書は、誰が読んでも納得できる文書と思う。

12日の説明会でも、建設地（案）をよしとする意見はあまりなかったと思う。

圧倒的に利用人数が多い高山地域で、まちづくり協議会単位での説明会を開き、意見を集約するほうが説得力が出る。高山、清見、丹生川地域の賛否を取るべきである。賛成か反対か、どこをとるか。

丹生川、高山、清見地域で説明会を開催したら、あとは丹生川地域にきて攻めるだけという進め方はできないし、私どもは断固として取り下げを主張していく。私どもが主張しているのも、宗教のことで、農業の風評被害が起きたら取り戻すのにどれだ

け時間がかかるかである。

答申書の参考資料に寄附と書いてあるのだから、おかしい。

副市長： 答申について申し上げたのではない。答申を受け、市として3件の候補地を横並びで選考する中、それぞれの経費を想定しても、建設地（案）がもっとも望ましいと申し上げた。

今後、パブリックコメントや3回の市民説明会の内容等を踏まえ、どのように進めるかを検討する。

以上